

# 江東区内の和菓子店で

使われていた

## か し き がた 菓子木型

わがし きがた えどじだい つく はじ  
和菓子の木型は、江戸時代に作られ始めたといわ

れます。とき けいか ふくざつ えがら  
時の経過とともに、しだいに複雑な絵柄が

かんが きがた しょくにん こうど  
考えだされると、木型を製作する職人にも高度な

ぎじゅつ ようきゅう  
技術が要求されました。

てんじひん みなみすな わがしてん はいぎょう じっさい  
展示品は南砂5丁目の和菓子店（廃業）で実際に

つか らくがん  
使われていた木型です。これらの木型を使って落雁な

ひがし うもの なまがし ねもの つく  
どの干菓子（打ち物）や生菓子（練り物）が作られま  
した。

ばあい ざいりょう つ こ  
※干菓子の場合、木型内に材料を詰め込んだあと、

よぶん すき  
余分なものをへらで擦り切ります。



つる  
鶴

墨書:「昭和拾四年 / 一月□日新□」「鶴」

横 18.3 × 縦 10.2 × 厚さ 5(2.5 + 2.5) cm





かめ    みのがめ  
亀 (蓑亀)

墨書:「□□□四年 / □月卅壹日」「亀」

横 18 × 縦 10.2 × 厚さ 5(2.5 + 2.5) cm



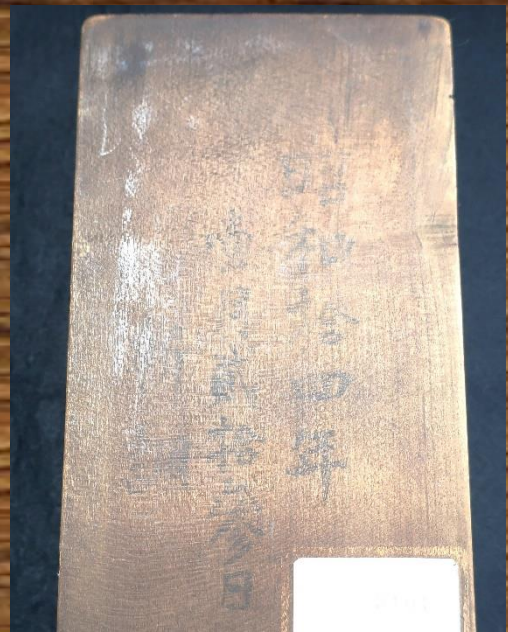


まつ  
松

墨書：「昭和拾四年 / 壹月貳拾参日 / 新調」  
「中村屋」「松」

横 18 × 縦 10.2 × 厚さ 5(2.5 + 2.5)cm





たけ  
竹

墨書：「昭和拾四年 / 壹月貳拾参日 / 新調」  
「中村屋」「竹」

横 18.6 × 縦 10.2 × 厚さ 4.7(2.3 + 2.4)cm





たい  
鯛 (大鯛)

墨書:「昭和拾四年 / 壹月貳拾参□□調」「大鯛」

横 27.7 × 縦 16 × 厚さ 5(2.5 + 2.5)cm